

大東文化歴史資料館だより

第20号 2016. 5. 31

『大東文化大学史研究紀要』刊行に向けて

百年史編纂委員会委員長・経済学部現代経済学科教授 中村 宗悦

資料館だより前号におきまして「今後は研究紀要を定期的に刊行し、大学史分野のみならず広く日本の近代史に一石を投じるような貢献をなしていきたいと考えています（この計画の具体的内容については、近日中に別途ご案内申し上げます）」とお知らせいたしました。この度、具体的な刊行のスケジュールおよび投稿規程が決まりましたので、お知らせいたします。

まず第1号の投稿メ切は2016年12月20日で、2017年3月31日刊行を目指します。投稿をお願いしたいのは、本学百年史、大学史等に関わる研究論文、本学百年史に関わる史資料の紹介（研究ノートも含む）のほか、本学関係の思い出を綴ったエッセイなどです。

投稿資格はとくにありませんが、編集委員会での査読を経て掲載決定となりますこと、あらかじめご了承ください。また百年史の叙述範囲は、基本的には大東文化大学および大東文化学院となりますが、『大東文化大学史研究紀要』には広く現在の系列校・附属校はもちろん、旧医学技術専門学校、かつて系列校であった大東文化大学盈進高校に関係するエッセイなども募集します。またこれらの学校に在籍されたことのある留学生の皆様からの投稿もお待ちしています。

さらに刊行が軌道に乗りましたら、座談会などの企画ものも適宜掲載していきたいと思っております。

以下の投稿規程をご理解の上、積極的なご投稿をおまちしております。

【投稿規程】

1. 大東文化大学史研究に資する研究成果を広く公募する。論文、研究ノート・資料紹介、エッセイは未刊行のものに限る。
2. 投稿資格は問わない。審査料・掲載料については、投稿種別を問わず無料とする。
3. 『大東文化大学史研究紀要』の編集は、百年史編纂委員会委員によって構成される『大東文化大学史研究紀要』編集委員会（以下、編集委員会）がおこなうものとし、編集委員会は各投稿論文等の審査（外部審査委員に審査を依頼する場合もある）をおこなう。編集委員会は審査の結果を受けて投稿の採否を決定する。なお、掲載に至る過程において執筆者に加筆修正を求められる場合がある。

4. 『大東文化大学史研究紀要』に掲載される文章すべての著作権は、大東文化学園が保有する。
5. 論文等の形態について、次のような指針を定める。
 - (ア) 本文の使用言語は、原則として日本語および英語とする（原典部分はこの限りではない）。
 - (イ) 論文の長さは原則として、タイトル、末尾注、図表、数式および参考文献を含め、日本語の場合で32,000字以内。英語の場合で8,000words以内とする。
 - (ウ) 日本語・英語いずれの場合も、約250wordsの英語要旨を付けること。
 - (エ) その他、執筆要項については大学史サイトを参照のこと。
6. 投稿は随時受け付けるが、当該年度発刊号のメ切はその都度告知する。
7. 原稿はWord等で作成すること。論文原稿には、投稿者の氏名、論文タイトル、総字数、住所、電話番号、E-mailアドレスを記載した表紙を付し、下記のアドレス宛に送付すること。なお、手書き原稿投稿を希望する場合には事前相談に応じる。
8. 研究ノート・資料紹介については論文に準ずるものとする。字数は日本語で20,000字以内、英語で6,000words以内とする。
9. エッセイについては、日本語で10,000字以内とする。

※他の規定については論文の規定に準ずるが、百年史編纂委員会の判断で手続きを簡略化できるものとする。

論文等の送付先：

E-mail：archives@ic.daito.ac.jp

投稿全般に関する問い合わせ先：

E-mail：archives@ic.daito.ac.jp

郵便：〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1

大東文化大学総務部総務課内

百年史編纂事務局宛

※なお5(エ)の執筆要項については、近日中に掲載予定です。

大東アーカイブス 第20回 企画展

大東スポーツの源流 — 体育部・体育連合会の創設と活躍 —

展示期間：平成28年4月20日(水)～平成28年9月30日(金)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

大東文化大学は、「スポーツの大東」として勇名を馳せてきました。大東文化学院創立より文武両道を旨としてきましたが、全学をおしてスポーツを推進するようになった転機は、1966（昭和41）年4月の「大東体育部（体育会）」「大東文化大学学生自治会体育連合会」の設立でした。

体育部の主目的は、すでに数多く存在した本学の運動部（当時16団体）をまとめ体育連合会とし、学生に健全なる身体と活発なる精神を涵養することでした。この大東体育部・学生自治会体育連合会の活動を主軸として、1970年代大東スポーツの活躍を描くことを、今回の企画展テーマといたしました。

大東スポーツを応援して下さっている方々は多く、同窓生や関係者の皆様を中心に、「大東スポーツ展」が見たいというご意見をこれまで多くいただいています。しかし、大東アーカイブスでは、いまだ十分な資料が蓄積されているとは言えません。そのため今後も、映像・画像データを含めて関連資料を積極的に収集保存し、多くの大東生たちの活躍の記録を後世へ残していきたいと考えております。

ご高覧いただき、これを機に、全国各地の多くの方々から情報をいただくことが出来れば幸いです。選手たちの活躍を知る皆様からのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆「大東体育部」設立当時の活動

設置当時の大東体育部は、16団体あった運動部の組織化・選手育成を急務としていました。1966（昭和41）年よりそのための具体的計画が練られ、翌年度には第一次育成計画を打ち立て、それに従い次々と実行



に移していきました。

各部には、部長のほかに補導官と監督とを置き、三位一体の体制によって手厚い指導が可能となるようにしました。特に「補導官」制度は当時としては大変珍しく、画期的な試みでした。また、「監督」には各分野において一流の実績を持つアスリートを招聘しました。第一線で活躍したからこそ得た、研ぎ澄まされた感覚によって、選手の指導に当たりました。

同時に、オリンピックを目標とし、選手が国際舞台で活躍することも視野に入れていました。1970（昭和45）年代には、米国よりオレゴン州大学選抜レスリングチーム及びカルフォルニア州大学選抜レスリングチームを順に招聘したほか、柔道部の台湾遠征、ラグビー部の中国大学選抜チームとの対戦、自動車部の韓国一周遠征、バスケットボール部の韓国遠征など、海外遠征や国際試合、外国人選手の招聘を積極的に進めていきました。

なお、大東体育部の創設翌年には、広大な敷地を誇る東松山校舎が開設されました。埼玉県体育協会の協力も得て、大東スポーツの強固にして確固たる基盤がこの時期に形成されていったのです。

◆大東体育部「第二次育成計画」

1969（昭和44）年、4年後に迎える本学創立五十周年へ向けて、大東体育発展の理念を改めて打ち出しました。

OB会（桐門会）を設立し、体育部各部の中にOB会を位置づけること、学園とOB会とが協力し相携えて大東スポーツを盛り上げ、選手育成のために一体となって推進していくことが決議されました。この頃にはすでに、学生自治会体育連合会所属の運動部は32団体へと拡大していました。第二次育成計画は五カ年計画で、各競技の常勝校としての地位を築くことが目指されたのです。

◆70年代 大東スポーツの大躍進

「大東体育部」の設置からわずか数年、70年代に入ると大東勢は大躍進を見せました。多くの競技で全国大会への出場を果たすようになったことはもちろん、選手たちは次々に各種大会で優勝をさらい、国際舞台で活躍するようになっていきます。

スキー部の学生選手権女子総合三連覇達成、1972（昭和47）年のミュンヘン五輪においてレスリング部OBがレスリング競技に出場、ロンドンで開催された世界学生柔道選手権では大東が優勝を飾るなど、選手たちは国際レベルとなっていきました。1976（昭和51）年のモントリオール五輪では、レスリングフリー100kgにおいて現役生が6位入賞を果たしました。

その他にも、野球部のリーグ初優勝、女子ボート部の全日本女子学生選手権初優勝等々、次々に大東選手が活躍していったのがこの時代でした。

「駅伝の大東」と呼ばれるようになったのも、70年代の陸上競技部の活躍があったからです。

1973（昭和48）年の第4回全日本大学駅伝における初優勝は、往路復

路の完全優勝でした。翌年の第5回も優勝、二連覇を果たしました。また、箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）でも1975（昭和50）年・1976（昭和51）年に二連覇を達成します。その後、1990（平成2）年・1991（平成3）年の箱根駅伝においても二連覇を達成、過去4度の優勝経験を誇ります。出雲駅伝での初優勝は、1990（平成2）年の第2回大会のことでした。

80年代以降になると、全日本大学競技ダンス選手権での優勝（1986年）、全日本学生弓道選手権大会優勝（1986年）、全国学生体重別相撲選手権大会優勝（1986年）、全国大学ラグビー選手権大会での初優勝（1987年）など、さらに多様な分野の競技で活躍が見られるようになります。駅伝もレスリングも変わらず強く、ソウル五輪（1988年）においては陸上競技部OBが長距離競技に出場、バルセロナ五輪（1992年）でOBがレスリング競技に出場するなど、1990年代に入っても躍進は止まりませんでした。

近年では、ロンドン五輪（2012年）における笠原選手のテコンドー競技出場のほか、女子スピードスケートや女子陸上競技の活躍などによって、女子選手に再び注目が集まっています。

現在、学生自治会体育連合会所属の運動部は41団体まで拡大、学生たちは多種多様なスポーツ分野で活躍しています。

（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）



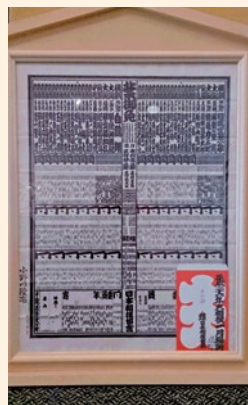
～大東アーカイブスの動き～ 2015年度受贈資料より

本学卒業生である清見瀧親方（元前頭 武州山）より、林正統元事務局長を通じ、本年3月場所の「番付表」を受贈しました。「小野川」を返上し年寄「清見瀧」を襲名したのになります。

ご存じのように、武州山隆士（現・年寄 清見瀧隆志、本名山本隆志）は、青森県南津軽郡浪岡町出身、藤島部屋所属の元大相撲力士です。

中学時代より相撲をはじめ、東北大会で優勝するなどその頭角をあらわし、青森県立金木高校を経て、大東文化大学へ進学。本学在学中は相撲部に所属し、全国学生相撲選手権大会等において大活躍しました。

1998年、本学卒業とともに武蔵川部屋へ入門、1999年1月場所にて初土俵。2002年3月場所から四股名を本名から「武州山」へと改め、2003年11月場所まで十両昇進、2008年11月場所で初入幕。自己最高位は2009年11月場所の西前頭3枚目。2013年1月場所をもって現役を退きました。通算成績は416勝427敗25休（84場所）。幕内成績は63勝102敗、幕内在位は11場所。



武州山と言えば、2011年に発覚し世間を騒がせた「大相撲八百長問題」に際し、特別調査委員会から「八百長に関わらなかった力士」認定第一号を受けたことで、一躍有名となりました。武州山への調査は一切が免除され、“ガチンコ力士”と称された自身への信用だけで得た認定でした。潔白で真面目な武州山への角界内での信頼は揺るぎないもので、武州山の評価とその姿勢は、大東相撲部の誇りであり、象徴する出来事でもありました。

場所が終わるたび、大東へも必ず挨拶に来校してくれていました。引退後は藤島部屋付きとなり年寄名跡「小野川」を襲名、2016年1月より年寄名跡「清見瀧」となり、現在は親方として後進の指導につとめています。



武州山（中央）来校の際、学長（左）・理事長（当時）と

<資料寄贈ご協力のお願い>

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関誌・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、ご連絡ください。

毎年、教職員や同窓生の方々から各種関係資料のご提供やご連絡をいただいております。在学中の刊行誌、写真、体育祭・学園祭のパンフレットや記録など、とても貴重な資料です。アーカイブスでは同時に、関係者からの聞き取り調査も積極的に行っていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いたします。

【大東アーカイブス活動記録】（2015年10月～2016年3月）

- | | |
|---|---|
| 10.1～6 企画展入れ替え作業 | 1.14 加藤常賢元教授について問い合わせ対応 |
| 10.7 第19回企画展「大東の国際交流 異文化交流と国際貢献を見据えて」公開 | 1.21 加藤常賢元教授について調査のため来館対応 |
| 10.8 全国大学史資料協議会全国大会参加（於：東北学院大学） | 1.21 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会参加（於：専修大学） |
| 10.20 布施次穂氏（同窓生）より資料受贈 | 2.16 学内所蔵事務文書調査のため資料借用運搬作業（総務課所蔵資料） |
| 10.23 河野芳英氏（英米文学科教授）より資料受贈 | 国際関係学部より資料移管 |
| 10.30 学内所蔵資料調査打合せ（総務課所蔵資料対象） | 3.9 歴史資料館運営委員会会議 |
| 11.4 学内所蔵事務文書調査のため資料借用運搬作業（総務課所蔵資料） | 3.10 全国大学史資料協議会幹事会・研究会参加（於：明治大学生田キャンパス） |
| 11.30 ニュースレター「大東文化歴史資料館だより」vol.19発行・配布 | 3.30 佐竹惇司氏（同窓生）より資料受贈 |
| 12.17 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会参加（於：武蔵野美術大学） | 金子昌江氏（元職員）より資料受贈 |
| 12.18 学内所蔵事務文書調査のため資料返却作業（総務課所蔵資料） | 林正統氏（元職員）より資料受贈 |
| 大東文化大学付属青桐幼稚園より資料移管 | 尾花清氏（元教育学科教授）より資料受贈 |
| 梅沢祐行氏（職員）より資料受贈 | 小谷野純一氏（元日本文学教授）より資料受贈 |
| 小川厚子氏（職員）より資料受贈 | 高橋守氏（職員）より資料受贈 |
| | 第一高等学校より資料移管 |